



国際ロータリー2630地区

名張ロータリークラブ

2025~2026

○会 長 小川 貴 司
○会 長 エレクト 藤 森 至
○副 会 長 宮 尾 保 範
○幹 事 坂 本 幸 嗣
○管理・親睦運営委員長 今 中 武 美
○広報・会報委員長 丹 下 剛 一

**UNITE
FOR
GOOD**

よいことの
ために
手を取りあおう

○例 会 場

名張市南町822-2 名張産業振興センター(アスパ)
TEL 0595-64-5353

○事 務 局

〒518-0729 名張市南町822-2
名張産業振興センター4F
TEL 0595-63-1338 FAX 0595-63-8163
月～木曜日 10時～15時(休憩12～13時)
E-mail nabarirc@e-net.or.jp

第 2825 回例会

8 月 25 日(月)12:30 点鐘

本日のプログラム

【総合同会】宮尾 保範 副会長
【ソング】君が代 四つのテスト
【行事】卓話：名張警察署長
安達 一人 様

【次回のお知らせ】

9/1 (月) 第 2826 回例会 誕生日、
結婚記念日お祝い

前例会の記録

第 2824 回例会

8 月 18 日(月)12:30 点鐘

【出席報告】 大藪君
○ゲスト
○ビジター
○出席報告
会員数 42 名 欠席人数 9 名
出席人数 33 名
出席免除者 3 名
事前メーキャップ 0 名
出席率 84.62%
○7/28(月)の出席率は 95.00%
訂正なしです。

【会長の時間】小川会長

皆さん、こんにちは。二週間ぶりの例会です。暑さはまだまだ収まりませんが涼を感じる“ひぐらし”が朝夕に鳴く頃となりました。16日には先祖の霊を送る盆の伝統行事、京都の「五山の送り火」が執り行われました。

さて、皆さんもご存じですが去る 14 日に裏千家大宗匠 千玄室様が亡くなりました。102 歳でした。100 歳の時、名張ロータリークラブ創立 60 周年(的場会長)の記念例会にお招きしてご講演を賜りました。茶の湯を通して世界を股にかけて一貫して世界平和を訴える活動を続けられました。特攻隊員として招集されて特攻直前に待機命令が出て、多くの戦友を見送り敗戦復員後、忸怩たる思いで歳を重ねられました。ご講演を直に拝聴して、最後まで姿勢を崩すことなくしゃくど話されたお姿が目に残っています。千様の目には今、世界中で起こっている戦争や紛争はどの様に映っていたのでしょうか？ご講演の中で次のように話されました。お茶碗が丸いのは地球を意味してその中のお抹茶の緑(Green)は“和の色”自然(Nature)であると言われていました。そして茶碗を回すのは正面をちょっとよけるということ。瞬間的に自己反省をする人間性を意味するということです。ちょっと控える自分が半歩下がると衝突しないのです。兄弟喧嘩、親子喧嘩、国同士だって半歩下がって話し合いをすれば戦争なんて起きないのです。“精進する”とはそういう事です。

そう言えばプーチン大統領はごく最近の談話で『ウクライナは我々の兄弟だ！』と語っていました。そうであるならどうして一方的に弟のウクライナに攻め込んで、お互いの国の罪のない多くの国民の尊い命が失われているのはどういう事なのでしょう？週末にウクライナのゼレンスキー大統領抜きで米口首脳会談がアラスカで開かれました。有り得ないことですが千玄室様がもしその場で献茶されて茶道の本質を我がままに“欲の塊”の米口両大統領に説かれたら、もしかして歴史は変わっていたかもしれないと想像してしまいます。今後は裏千家家元 千宗室様の出番です。玄室様に替わって丸いお茶碗とお抹茶で私たちのかけがえのない地球を守るために平和活動をされんことを願うばかりです。千玄室様との出会いは又、お話したいと思います。

【幹事報告】

◎お知らせ ・再度の連絡です。地区大会が 11/8(土)・9(日)桑名市柿安シティホール(桑名市民会館)にて開催されます。全員登録させていただきます。登録料は 12,000 円ですが、負担額は理事会で決めたいと思います。

◎家庭集会 8/21(木)当番リーダー：大藪 出席者：志浦 廣瀬 中島 山本

◎他クラブ例会の変更 ※事務局にてご確認ください

上野ロータリークラブ 9/9(火)⇒9/8(月)ガバナー公式訪問 4クラブ合同例会 9/23(火)法定休会 9/30(火)公認休会
すべてビジター受付はございません。

上野東ロータリークラブ 9/4(木)会場都合により早朝例会に変更 9/11(木)⇒9/8(月)ガバナー公式訪問 4クラブ合同例会
すべてビジター受付はございません。



◎その他 ・卓話時間の提示はベルを利用します。残り時間 3 分でベルを 2 回鳴らします。残り 1 分でベルを 1 回、照明を 1 トーン明るくします。終わらないときは司会から「お時間が過ぎましたのでお話のまとめをお願い申し上げます」と伝えますが、事前に幹事から卓話者の方へ失礼のないように伝えさせていただきます ・食事のお茶の提供は飲みたい方が各自で入れていただくことになります。 ・マイロータリーへの全員登録をさせていただきたいと思います。各組織で各委員長が責任をもってやって頂くようお願いいたします

■会員卓話 井上君

入会して 13 年を過ぎたがロータリーをよく分かっていない。今回、卓話の機会を頂いたことを機に、ロータリーについて調べてみた。とは言え、軽くネット検索して得た情報を備忘録的に纏めたものであるため、裏付けも取れておらず情報の正確性は保証できない。誤っているところには、ご指摘、ご教示頂けると幸いだ。また、あくまで自分なりに思ったことを纏めたものであり、皆さんに説いたものではないことを予めご理解願いたい。ロータリーとは何かと聞かれても、明確に答えられないのが現状である。奉仕団体ではないと言いながら奉仕活動を行ってること、また、様々な標語や、キーワードについても深く意識したことがない。そこで、ロータリーの成り立ちを辿ることで、それらがどのような経緯で生まれたものであるか、また、ロータリーとはどういったものであるかみてみた。



★ロータリークラブ変遷

1905 年（明治 38 年）ポール・ハリスによりロータリーが設立された。ポール・ハリスは、シカゴで弁護士をしていたが、知人はいたが、友人はなく、ファーストネーム、ニックネームで呼び合える友人がほしかった、また、当時のシカゴでは、商業道德の欠如が問題となっていた。信頼できる仲間を増やし、公正な取引を奨励することが設立理由である。ポール・ハリスは、最初の会合で「一業種一会員制の原則」を採択し、その後の、シカゴクラブの創立総会において「規則的例会出席の原則」を採択した。また、会員同士は互いに利益を貪ってはならない、「原価の取引（良心的な価格での取引）」を義務づけた。これらは、何れもクラブ親睦のための基本原則で、この時点では「親睦」だけのロータリーであった。

1906 年（明治 39 年）特許専門の弁護士であるドナルド・カーターを入会に誘ったが、ロータリーは自分達だけが豊かになり、周囲の人を豊かにすることを考えていないエゴイズムの団体であるから入会しないと断られた。ポール・ハリスは反省し、自分たちの親睦のエネルギーを世のため、人のための奉仕にと考えるようになった。ここから、ロータリーの拡大が始まった。

1910 年（明治 43 年）全米に存在していた 16 クラブをもって、全米ロータリークラブ連合会（1922 年に RI になる）を設立し、ここからは、それぞれのクラブレベルではなく、連合会レベルで諸々の原理・原則を開発していった。

1911 年（明治 44 年）全米ロータリークラブ連合会の第二回ロータリー大会において、アーサー・フレデリック・シェルドンが行った演説を基に作られた「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」がロータリー標語として承認され、また、同大会でベン・コリンズが「無私の奉仕」（後の「超私の奉仕」）について演説し熱烈に歓迎された。この「無私の奉仕」は、会員同士で行っていた原価取引を、自分達だけでなく会員以外の他の人にも広げようという意味である。

1915 年（大正 4 年）サンフランシスコ国際大会において、いわゆる「ロータリー道德律」が採択され、ロータリアンの個人倫理が確立された。なお、この「ロータリー道德律」は 1980 年の規定審議会で廃止されている。

1922 年（大正 11 年）ロサンゼルス国際大会の議決により、「国際ロータリーの定款・細則」及び「標準クラブ定款」、「ロータリーの綱領」が原則的に完成した。この時点で、ロータリーの組織原理が確立された。

1923 年（大正 12 年）セントルイスの国際大会により「決議 23-34 号」が採択され、実践原理が確立された。設立された 1905 年から 1923 年までの 18 年間で、ロータリーの原理・原則が開発された。この原理・原則をどのように実践すべきか思考され、1927 年（昭和 2 年）に国際ロータリー理事会によって「四大奉仕」の概念が開発され、実践方法が確立された。

1950 年（昭和 25 年）デトロイトで開催された RI 国際大会で、「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」と「無私の奉仕」から修正された「超私の奉仕」がロータリーの公式標語として正式に承認された。

1954 年（昭和 29 年）ハーバード・テラー（1954-55 年度 RI 会長）が考案した「四つのテスト」の著作権がロータリーに譲られた。

■当時のロータリーにおける親睦と奉仕についての考え方

●ロータリーの親睦

ロータリーが本来考えている親睦とは、例会に出席し、お互いに自分の至らないところを学び合うこと、お互いを磨き合うことである。「ロータリーは人を育てる」と謂われる所以である。「ロータリーを楽しもう」とは互いに研鑽し合う親睦のことである。

●ロータリーの奉仕

ロータリーの奉仕は、先ず、ロータリアン自身がロータリーの中で人格を磨き、クラブ外で、この磨かれた人格の功徳をロータリアン以外の人達に対して施し、その人達の人格を高めることである。「入りて学び、出でて奉仕せよ」である。先人達の奉仕に関する言葉を見ても。ガイ・ガンディカー（1923-24 年度 RI 会長、「ロータリー通解」著）ロータリーの奉仕とは、困った人に物を施すことではない。社会のありとあらゆる事象に対して千変万化（せんぺんばんか）に対応できる、そのもとになる奉仕の心のことを意味する。アーサー・フレデリック・シェルドン 社会の制度の歪みに落ち込んで救済を求めている人達に、その救済の策を講じるということはやって悪いと言うわけではない。それは何処かでしなければならないことであるが、しかし、それは少なくともロータリーの本体的な奉仕ではない。ウィリアム R・ロビンス（1974-75 年度 RI 会長）クラブがどのような実施をしたかは重要ではなく、クラブがどのよう

な人を育てたかが重要。米山梅吉（日本の初代ガバナー）ロータリークラブは奉仕クラブではない。ロータリーは団体で社会奉仕活動をする集まりではなく、例会で一人ひとりが奉仕の心を磨き、日常生活全般において奉仕の心を実践するという哲学である。米山梅吉氏は「ロータリーの例会は人生の道場である」と述べられており、例会が人格を磨ける場になるよう、会員一人ひとりの心構えを含め例会がそのような場になるよう取り組む必要がある。

■奉仕とサービスについて

ロータリーの原文は英語のサービスであるが、日本語では奉仕と訳されている。サービスとは、人のためになる行為全体を指す。相手の事を思い、相手のためになるような行為、相手をおもんばかった行為であり、倫理的な意味が非常に強い。日本語で日常的に使うサービスとは意味が違う。人のためになるには高い倫理性が求められる。これに対し、奉仕とは、「自己の利害をはなれて長上の者や公共のためにつくすこと」、「仕えまつること」であり、縦社会の意味合いが強い。サービスと奉仕の意味合いは異なり、正確な日本語で訳すことができなかったため、米山梅吉氏など戦前の人達は「奉仕」ではなく「サービス」と言っていた。奉仕とサービスのどちらが良いというものではない。自分にじっくりくる言葉で解釈すればよいのではないか。

■ロータリー-の綱領（ロータリーの目的）

ロータリーの綱領は、「ロータリーとは何か」ということを明瞭に書き上げたもので、ロータリアンにとって一番大事なものである。ロータリーは、企業の根底に儲けがあることを認めたうえで、適正な利潤を超えて儲けてはならないということである。ロータリーは、儲けた金額ではなく、儲けた方法を問題にする。企業の根底に奉仕を置いて職業を営めば、奉仕を通じて厚い信用に支えられ、利潤（儲け）が長期的に安定的に入ってくる。「利己と利他との調和」を謂っている。

各項を見てみると、

第1は、先ず親睦がある。親睦とは、お互いを磨き合うことである。

第2は、親睦の実質的内容について規定している。

第3は、奉仕の実践、ロータリー活動の規定であり、「全てのロータリアンは個人生活、事業生活、社会生活において、常に奉仕の理想を適用すること」を規定している。

第4は、国際奉仕の実践について規定している。

■決議23-34号が採択されるまでの経緯

ロータリーの奉仕とは自己研鑽し、各々が生活全般において奉仕の心を実践するものである。しかし、クラブにおいては団体奉仕も行われていた。団体奉仕として有名なのは、シカゴクラブがシカゴの街の公衆衛生の問題を改善するために、シカゴで最初の公衆トイレを設置した事例がある。しかし、団体奉仕を本来のロータリーの奉仕ではないと批判する意見もあり、ロータリー内で団体奉仕肯定派と否定派に分かれ対立が生じた。議論が交されたが折り合いが付かず、各々、自分達のロータリーをしようと分裂の危機が生じた。これを避けるために、1923年の国際大会にて、ロータリーの綱領を基に作成された決議23-34号が決議された。

決議23-34号では、

- ・ロータリーは一つの人生哲学であること
- ・ロータリー哲学を団体で学ぶこと
- ・ロータリー哲学の実際例を団体で示すこと
- ・一人ひとりが生活全般においてロータリー哲学を実践すること
- ・団体奉仕的な社会奉仕活動の準則

が述べられており、双方の言い分を調和している。

■四大奉仕（クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕）・五大奉仕（四大奉仕、青少年奉仕）

決議23-34号が決議され、原理・原則は確立されたが、どのように実践すべきかについては決まっていなかった。1927年、RI理事会は、ロータリーの奉仕を実践の側から、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の四部門に割った。2010年の規定審議会で青少年奉仕が追加され五大奉仕となった。

■ロータリー財団

1917年、アーチ・シー・克蘭フの提唱により「国際理解と親善のための基金」を設定。ロータリーの考え方は個人奉仕、皆でお金を集めて何かをしようとする団体ではなかったため、当初、お金は全く集まらなかったが、苦勞しながらもこの基金にお金を貯めていった。

1923年の関東大震災に際して、RIから救済基金として東京ロータリークラブに25,000\$送られた。米山さん始め、東京クラブの面々は驚き、また感激してロータリーを見直したことはロータリー日本史上の有名な話である。

1931年にロータリー財団になったが、依然としてお金は集まらなかった。

1947年にポール・ハリスがこの世を去ってから勢いがついてきた。ポール・ハリスが終生最も強く念願していたものは「戦争予防のためのロータリーの国際性、ロータリー財団の育成」である。残されたロータリアン達がポール・ハリスの遺志を継ごうと言って立ち上がり、国際奉仕とロータリー財団がひのき舞台に立つようになった。違う見方をすると、現在のロータリアンは初期のロータリーの原理認識を忘れ去ってしまったからともいえる。

★ポール・ハリスが大切にしたもの

ポール・ハリスは「寛容」を大事に考えた。ポールの考える寛容は、人間社会の基本にかかわる事であり、平和への道である。寛容に関するポール・ハリスの言葉が残っている。

- ・人の考え方はその気質や遺伝、環境、経験等幾多の要因で形成される。人によって考えが違うのは当たり前だ。だから独断的なロータリーの主張は無益だ。
- ・宗教の信仰が違う人々がロータリーで、同じテーブルにつく事ができたら、どんなに素晴らしいことだろう。
- ・ロータリーが、より寛容で、より他の人の良さを認め、より他の人と親しく交わり、助け合うようにしてくれるなら、そして、人生の美しさと喜びを発散し伝えるようにしてくれるなら、それが我々が求めるロータリーのすべてである。それ以上ロータリーに何を求めることがあろうか。

ロータリーの黎明期から近年までざっと辿ってみた。ロータリーは創立当初から変化をし続けてきた団体であることがうかがえる。組織は人により創られるものだ。人が変れば組織の在り方も変ってくる。諸行無常である。変化することは悪いことではない。ロータリーとは「寛容」と「高い倫理感」に基づいた哲学である。組織の在り方が変化しても、自己研鑽と、日々の生活の中でロータリーを実践し続けることが大切なことではいだろうか。

■委員会報告 管理親睦委員会 今中委員長

今年の秋の親睦家族例会が 10/20 実施致します。 8/25 次回例会時に出欠確認を行います。電車含めたスケジュールを LINE で連絡いたします。

【ニコニコ BOX】 本日の合計金額

〇2 週間ぶりの例会です。あいかわらず暑い日が続いています。会員の皆さんくれぐれもご自愛下さい 井上君卓話楽しみです。 小川会長

〇中島さん、川口さん、浅津さん、今中さん 色々教えて頂いてありがとうございました。感謝申し上げます 坂本幹事

〇井上君 卓話よろしく 三枝君 中島君 福本君 浅津君 城山君 川口君 藤森君 宮尾君 奥中君 奥田君 廣瀬君 廣野君 志浦君 三木君 山本君 今中君 杉本君 瓦井君 隠地君 脇坂君 玉田君 遠山君 大藪君 梅澤君 岩見君 富永君

〇母の初盆には多数お参り頂きまして有難うございました。 的場君

〇お盆の3日間 小2の孫と鮎釣りしました。今年の名張川は好調です。 暑い日が続きますが、みなさんご自愛ください。 勝木君

〇本日卓話をさせていただきます。宜しく願いいたします。 井上君

